次期学習指導要領 教科別まとめ　　高校 No.01

審議まとめ（2026年10月5日）を高校の先生向けにまとめ直しました

# 国語

## 次期学習指導要領で、どう変わる？

**話す・書く・読むを「話や文章の機能」でつなぐ教科へ**






**10秒でいうと**　必履修は現代の国語Ⅰ・言語文化Ⅰ。選択は現代の国語Ⅱ・言語文化Ⅱと発展4科目に再編

### やさしく言うと

高校の国語は、必履修の2科目の枠組みと単位数を保つ方向です。名前は「現代の国語Ⅰ」「言語文化Ⅰ」（いずれも仮称）とする案です。選択科目は、標準の2科目と発展の4科目に組み替える案です。理系で「論理国語」だけ、といった学びの偏りをなくすことがねらいです。古典は、文法と口語訳に偏った指導の見直しが示されています。

### 高校はいつから？

| | |
|---|---|
| 全面実施 | 2032年度の入学生から（学年ごとに。2034年度に全学年）（見込み） |
| 移行期間 | 2029～2031年度 |
| 告示 | 2027年度末の予定 |
| 教科書 | 2032年度から学年ごとに新しい教科書（2030年度から検定） |

### この冊子の中身


| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 国語のポイント | 4つ | 2 主な変更点 | 8項目 |
| 3 現行と次期の比較（新旧対照） | 7項目 | 4 高校の科目と単位 | |
| 5 授業時数 | | 6 生成AI・ICTとの付き合い方 | 6項目 |
| 7 今からできる準備チェックリスト | 8項目 | 8 次期を先取りする授業アイデア | 1本 |
| 9 指導案（試案） | 1本 | 10 現行の学習指導要領・解説（高校） | |


**無料** 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

**国語の3行要約（全校種）**

1. 話や文章が社会で果たす役割(「話や文章の機能」(仮称))を軸に、話す・聞く、書く、読むの学習を関連付けて計画できるよう内容を整理し直す方向。
2. 「知識及び技能」は「運用しながら深める」面と「教養として深める」面の2つに分け、漢字などの事項もまとめ直して精選する案。
3. 高校は必履修2科目の枠組みと単位数を保ったまま、選択科目を標準2科目(各8新単位)と発展4科目(各4新単位)に組み替える案(科目名は仮称)。

※高校の新科目名(現代の国語Ⅰ・Ⅱ、言語文化Ⅰ・Ⅱ、論説と批評ほか発展4科目)と「話や文章の機能」は仮称。

## 1 国語のポイント

4つ

### 1 必履修は「現代の国語Ⅰ」「言語文化Ⅰ」

必履修は今の枠組みと単位数を保つ方向です。論理的に考える力や伝え合う力を中心に育てる「現代の国語Ⅰ」(仮称)を置きます。感性や情緒を理解し、豊かに想像し表現する力を育てる「言語文化Ⅰ」(仮称)も置きます。この2科目を必履修とする案です。 P80 P137

**授業では、たとえば** 今の「現代の国語」「言語文化」の年間計画を、科目のねらいに合う教材と活動か点検しておく。それが準備の一例です。

### 2 選択科目は「標準2科目＋発展4科目」に

今の選択4科目(各4単位)を組み替える案です。標準科目「現代の国語Ⅱ」「言語文化Ⅱ」(各8新単位、仮称)を、大多数の生徒が学ぶことを想定して置きます。その上に「論説と批評」「対話と表現」「文学と創作」「古典と文化」(各4新単位、仮称)を置きます。 P80 P137

**授業では、たとえば** 理系クラスの国語の履修を点検し、標準2科目を置いた場合の教育課程の案を教科会で試しに作る。そんな準備が考えられます。

### 3 教材は「科目のねらい」で選ぶ

教材は、その科目で主に育てる力に合うかで判断する整理です。論理的な力を育てる科目でも、ねらいに合えば文学作品を扱えるとしています。感性を育てる科目でも、論説文や批評文を扱えるとしています。実用文は報道文や広告などを中心に扱うと明記する方向です。 P138

**授業では、たとえば** 論理の科目で、小説の一場面について書かれた批評文を読み、根拠の示し方を分析する。そうした組み合わせが考えられます。

### 4 古典を身近に、文法偏重を見直す

高校の古典は、身近で親しみのあるものと捉え、関心をもつことを重視する方向です。小中との学びの接続を強めるとしています。文語文法と口語訳に偏った指導を見直すことも示されています。言語文化への理解を深める学習の充実もあげられています。 P136

**授業では、たとえば** 口語訳の確認に時間をかけすぎず、古典の表現が今の言葉や文化にどうつながるかを話し合う時間をとる。そんな授業が一例です。

## 2 主な変更点

8項目

### 1. 「話や文章の機能」（仮称）で3つの領域の学習をつなぐ

これまでは「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習がばらばらに意識されがちでした。次期は、話や文章が社会の中で果たす主な役割を「話や文章の機能」として整理し、その機能ごとに指導事項を並べる方向です。機能は「事実や知識の整理と理解」「考えや主張の理由付けと吟味」「思いや経験の表出と想像」「協働による考えの深化や合意」（いずれも仮称）などです。たとえば「論説を読む」「意見文を書く」「提案のスピーチをする」を、同じ「考えや主張の理由付けと吟味」の学習としてつないだ年間計画が立てやすくなります。 P131 P134 P139

### 2. 高 高校の国語科目の組み替え（選択科目を標準＋発展に）

審議まとめの案では、必履修は「現代の国語Ⅰ」（仮称）と「言語文化Ⅰ」（仮称）の2科目で、今の枠組みと単位数は変えないとしています。選択科目は今の4科目（各4単位）から、標準的な内容を集めた「現代の国語Ⅱ」「言語文化Ⅱ」（各8新単位、どちらも仮称）と、発展的な4科目「論説と批評」「対話と表現」「文学と創作」「古典と文化」（各4新単位、仮称）に組み替える案です。理系で「論理国語」だけ、などの学びの偏りをなくすことがねらいです。教材は科目のねらいに合うかで判断し、論理の科目でも趣旨に合えば文学作品を扱えるとしています。 P129 P137 P138 P80 P82

### 3. 「思考力、判断力、表現力等」の示し方を、文章の種類と考える要素の「ひとまとまり」に

今は学習過程ごとに細かく分けた事項と、話や文章の種類ごとの言語活動例が別々に書かれています。次期は「話や文章の機能」を軸に、扱う文章の種類と、そこで働かせる考え方をまとめて一つの事項として示す方向です。例として「書くこと」では、「意見を述べる文章」と「主張を明確にする」「根拠を検討する」などを一括りにします。学習過程も簡単になり、話す・書くは「考えの形成／表現・推敲」、聞く・読むは「構造と内容の理解・解釈／考えの形成」にそろえる方向です。 P134 P138

### 4. 「知識及び技能」を「運用しながら深める」と「教養として深める」の2つに整理

言葉の知識を、使う場面がはっきりするよう2つの面に分ける案です。(1)運用しながら深める事項は、文章の構造や表現の仕方など、話す・書く・読む中で使って身に付けるものです。(2)教養として深める事項は、言葉のきまり、古典、書写、読書などを、その意味や価値と結び付けて理解するものです。事項は「事項のまとまり」に分けて示し、たとえば今は別々の「漢字の読みと書き」と「漢字の偏やつくり、由来や特質」を一つにまとめるとしています。 P131 P135 P138

### 5. 評価のやり方の整理（形成的評価を重く、まとめの評価は後で）

短い単元ごとに最終評価まで行おうとして、途中の見取りや声かけがしにくい、単元後に知識だけのペーパーテストで評価する、といった実態が課題とされています。次期は、学習の途中では形成的評価（学習の改善に生かす評価）を行い、単元の成果として力が総合的に発揮されているかで総括的評価をする、という考え方を示します。運用しながら深める知識は複数の単元を経てから、教養として深める知識は単元末や学期末などにまとめて評価することが考えられるとしています。 P129 P142

### 6. 生成AIの使い方とローマ字入力の扱い

生成AIを含むICTは、授業のねらいに合うときに使うのが原則で、AIが出した答えも比べて吟味する対象とします。要約する、最初の考えを書く、文章の構成を考えるなど、その単元で育てたい力に直結する場面では、AIを不用意に使わないよう慎重になるべきだとしています。評価では、集めた情報の信頼性や妥当性を確かめて自分で考え表現できているかを、より重視します。ローマ字の学習は今どおり小学校3年の国語で行い、ローマ字入力のタイピングは「総合的な学習の時間・情報の領域」が中心に担う方向です。 P129 P140

**7. 教科書の教材を「基幹教材」と「関連教材」に分ける**

教科書の中で、力を育てる中心になる「基幹教材」と、学校や子どもの状況に合わせて使い方を変えられる「関連教材」をはっきりさせることが考えられています。同じ「話や文章の機能」に関わる教材をまとめて扱い、重なりを減らして教科書の内容を精選することが考えられています。調整授業時数で時数を増減する場合や高校で単位数を増減する場合は、必要な内容を保障したうえで関連教材の使い方を調整することで対応できるとしています。P139

**8. 情報の扱い方・語彙・読書・古典の学習をさらに改善**

情報の扱い方は、「情報どうしの関係を整理する力」と「情報の信頼性や妥当性を見極める力」という性質の違う2つの力を、学年に応じて系統的に示す方向です。語彙は、文脈の中で言葉を使って語感を磨く学習と、言葉の意味や関係を理解して語彙を増やす学習を両方進めます。読書は、きっかけづくりと、自分から読む読書へ移るための学習を充実させ、学校図書館との連携も進めます。高校の古典は、文語文法と口語訳に偏った指導を見直し、小中との接続や言語文化への理解を深める学習を重視するとしています。P136

## 3 現行と次期の比較（新旧対照）

7項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

| 項目 | 現行 | 次期（審議まとめの方向） |
|---|---|---|
| 国語の「見方・考え方」 | 「言葉による見方・考え方」として、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味・働き・使い方などに着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。 | 「様々な事象を表す**自他の言葉**を」、その意味や働き、使い方に着目して吟味し、「**多様な立場や考えを理解して、よりよく伝え合おうとする**こと」と、より短く示す（案）。P132 |
| 「思考力、判断力、表現力等」の学習過程 | 領域ごとに学習過程が違い、細かく分かれている（例：「読むこと」は「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成」「共有」など）。 | 領域どうしでそろえる。話す・書く＝「**考えの形成／表現・推敲**」、聞く・読む＝「**構造と内容の理解・解釈／考えの形成**」、話し合う＝「**考えの形成**」。P129 P134 |
| 言語活動例・指導事項の示し方 | 学習過程ごとに細分化した事項と、3領域別・話や文章の種類別の言語活動例を別々に示している。 | 「**話や文章の機能**」（仮称）を軸に、扱う話や文章の種類と、思考・判断・表現の要素を一体にした「**一括りの事項**」として示す。P129 P134 P138 |
| 「知識及び技能」の示し方 | 個々の事項が独立して並ぶ（例：「漢字の読みと書き」と「漢字の偏やつくり、由来や特質」が別の内容）。どの知識を活用重視にし、どれを取り立てて学ぶのかが明確でない。 | 「（1）**運用しながら深める**事項」と「（2）**教養として深める**事項」に分け、「**事項のまとまり**」で構造的に示す。漢字の読み書きと漢字の構成などは一つの事項に統合。P129 P135 P138 |
| 高校の必履修科目 | 「現代の国語」2単位、「言語文化」2単位。 | 「**現代の国語Ⅰ**」（仮称）**4新単位**、「**言語文化Ⅰ**」（仮称）**4新単位**。枠組みと単位数は変えず、科目の特質を目標で明確に示す案。P80 P82 P137 |
| 高校の選択科目 | 「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」（全て4単位）。単位数が多く時間割上の制約が大きい。進学校で「国語表現」が選ばれにくい、理系で「論理国語」中心の履修にとどまるなど偏りがある。 | 標準科目「**現代の国語Ⅱ**」「**言語文化Ⅱ**」（各8新単位）を大多数の生徒向けに新設する案で、その履修を前提に発展科目「**論説と批評**」「**対話と表現**」「**文学と創作**」「**古典と文化**」（各4新単位）を新設する案。科目名はすべて仮称。P129 P137 P82 |
| 高校の古典学習 | 本文は、文語文法と口語訳に指導が偏っていることを見直すべき点として挙げている。 | 古典を身近に感じ主体的に関心をもつことを重視し、小中との接続の強化、文語文法・口語訳への偏りの見直し、**言語文化への理解を深める学習**の充実の3つを進める。P136 |

## 4 高校の科目と単位

審議まとめの案（P82「構成（案）」）では、必履修科目は現行の枠組みを維持し「現代の国語Ⅰ」（仮称、4新単位）と「言語文化Ⅰ」（仮称、4新単位）の2科目。選択科目は現行の「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」（各4単位）を再編し、標準科目として「現代の国語Ⅱ」（仮称、8新単位：3領域を偏りなく学び論理的思考力やコミュニケーション能力を育成）と「言語文化Ⅱ」（仮称、8新単位：古典と近代以降の文章を言語文化として学ぶ）を新設、その履修を前提とする発展科目として「論説と批評」「対話と表現」「文学と創作」「古典と文化」（いずれも仮称、各4新単位）を新設。必履修科目を1・2年次で分けて履修する場合、2年次に必履修科目と標準科目を同時に履修できるようにする（標準科目と発展科目の関係も同様）。

## 5 授業時数

小中の国語の標準授業時数の具体的な数字は示されていない。総論では、新教科・領域の時数を確保するため、小学校3年以上で現在35コマ以下のものを除く教科等から一律3～4%程度を「広く薄く」減らす考え方が示され、実数は今後検討とされている（P79）。国語の節でも内容の充実は「総授業時数を増加させないことが前提」（P134）。高校は必履修の単位数等に変化なし（現代の国語2単位→現代の国語Ⅰ4新単位、言語文化2単位→言語文化Ⅰ4新単位）。選択科目は現行各4単位から、標準科目各8新単位・発展科目各4新単位へ（P80・P82）。新単位は1単位の学習量を17コマとしたもの。

## 6 生成AI・ICTとの付き合い方

6項目

**1. 生成AI時代に「人間ならではの言葉の力」を**
AIが言葉を大量につくり、SNSで簡単に発信できる時代だからこそ、言葉の意味を理解し、自分の考えを形にして表現し、他の人の経験や気持ちを理解する「人間ならではの言語能力」を育てるとされています。 P128 P130 P140 資料編(1)P46 資料編(1)P139

**2. AI要約をコピペする実態への対応**
検索結果の一番上に出るAIの要約を、よく考えずにそのままコピーする実態が見られます。集めた情報が信頼できるか、妥当かを確かめたうえで、自分で考え・判断し・表現できるように指導することが重要とされています。 P129

**3. 生成AIを使う原則：ねらいに合うときに、出力も比べて吟味する**
生成AIを含むICTは、発達段階をふまえ、授業のねらいに合うときに使うのが原則です。AIの出力も比べて吟味する対象であること、自分で考えた内容を自分の言葉で説明し責任を持つことを基本にします。 P140

**4. AIの使用に特に慎重であるべき場面**
文章の全体をつかむための要約、最初の考えを文章にする活動、書くための構成を考えたり情報を選んだりする活動など、その単元で育てたい力に直結する場面では、AIを不用意に使うことに慎重であるべきだとされています。子供自身が行うべき考える・判断する・表現する過程がAIに置きかわらないよう特に注意します。 P140

**5. 評価は「情報を確かめて自分で考えたか」を重視**
評価では、集めた情報の信頼性や妥当性を確かめたうえで、それを使って自分で考え・判断し・表現できているかという観点を、当面の基本的な考え方としてより重視するとされています。技術の進展による変化にも対応が必要とされています。 P140

**6. 語彙：AIの時代こそ実感のある言葉を**
生成AIが発展する中、人間ならではの実感を伴った理解・思考・表現を支える語感を磨き、語彙を豊かにする学習を充実させるとされています。 P136

## 7 今からできる準備チェックリスト

8項目

- [ ] 今すぐ 今の年間指導計画の単元を、「話や文章の機能」（仮称）の4つ（事実や知識の整理と理解／考えや主張の理由付けと吟味／思いや経験の表出と想像／協働による考えの深化や合意）で色分けし、領域をまたいでつなげられる単元の組（例：論説を読む・意見文を書く・提案のスピーチをする）を1組見つけて、続けて教えてみます。P131 P134 P139
- [ ] 今すぐ 要約する、最初の考えを書く、文章の構成を考えるなど、その単元で育てたい力に直結する場面では生成AIを使わせない、といった「使う場面・使わない場面」を教科会で話し合い、学年でそろえておきます。P140
- [ ] 今すぐ 単元計画に、途中で学習状況を見取って声をかける場面（形成的評価）を書き込み、単元末の知識だけのペーパーテストで評価を済ませていないかを点検します。P129 P142
- [ ] 告示まで 「知識及び技能」を、話す・書く・読む中で使って深めるもの（文章の構成、表現の仕方など）と、教養として深めるもの（言葉のきまり、古典、書写、読書など）に仕分け、前者は複数の単元を経てから、後者は単元末や学期末にまとめて評価する計画を1学期分試します。P131 P135 P142
- [ ] 告示まで 司書教諭・学校司書と相談し、読書のきっかけづくり（ブックトーク、読書会、ビブリオバトルなど）と、自分から読む読書へ移るための学習を年間計画に位置付けます。P129 P136 P141
- [ ] 告示まで 書写で評価する「文字を整えて書く力」と、ほかの学習で表現の手段として書く文字とを分けて評価の対象を確かめ、書字に困難のある子供にはデジタルの活用や代わりの方法を用意しておきます。P141
- [ ] 先行実施まで 高校では、今の選択科目（論理国語・文学国語・国語表現・古典探究）の履修の偏りを点検し、標準科目「現代の国語Ⅱ」「言語文化Ⅱ」と発展4科目（いずれも仮称）を置く場合の教育課程の案を検討し始めます。P129 P137
- [ ] 全面実施まで 教科書の「基幹教材」と「関連教材」の区別を見越し、同じ「話や文章の機能」の教材を束ねて、時数に応じて関連教材の扱いを増減できる単元計画の型を校内で作っておきます。P139

## 8 次期を先取りする授業アイデア

1本

高1（言語文化）　1単位時間（50分）

### 古典の「ものの見方」を今の暮らしに移す

口語訳で終わらせず、作者のものの見方を借りて現代を書くと、古典が自分の言葉になります。

手順・ワークシート

**ねらい**

随筆の一段について、作者が何に目を向け、どう価値づけているかを本文の語句を根拠に捉え、その見方を現代の身近な場面に当てはめて表現することを通して、古典のものの見方が今も生きていることを説明できる。

**流れ**

- 5分　中学校で読んだ古典の一覧を見せ、「覚えている場面は？」と聞きます。今日も「昔の人のものの見方」を借りる練習だと伝えます。
- 10分　ペアで本文を音読し、前時の口語訳を確かめたうえで、作者が「何に目を向け」「どう価値づけているか」をワークシートに書きます。文法事項の確認は、意味を取るのに必要な箇所だけにとどめます。
- 10分　4人班で「作者のレンズ」を言葉にします。「この作者は、〜を…と見る人だ」という一文にまとめ、根拠となる本文の語句に線を引きます。
- 15分　一人で、作者のレンズを現代の場面（端末で撮る写真、部活動の大会、季節の行事など）に当てはめ、200字程度の短い随筆を書きます。最後に「この見方を借りて気付いたこと」を1文添えます。
- 7分　班で読み合い、「元の章段のどの見方を受け継いでいるか」を本文の語句を指しながら伝え合います。
- 3分　振り返りとして、「古典を読むことで、今の自分の見方がどう広がったか」を書きます。

**評価**

【思考・判断・表現（読むこと）】作者の見方を本文の語句を根拠に捉え、自分の文章に生かしているかを、ワークシートと随筆で見取ります。【知識・技能（教養として深める側面）】古典の見方を現代に当てはめることで、古典を読む意義や価値を自分の言葉で説明しているかを振り返りで見ます。随筆の出来ばえより、元の章段との対応を説明できているかを重く見ます。

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜国語（高校）教科別まとめ｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

## 9 指導案（試案）

1本

高等学校第1学年　現代の国語　全6時間（本時は第2時）

### 根拠を確かめて提案しよう ～文化祭のごみを減らす意見文を書く～

中央教育審議会教育課程部会の審議まとめ（2026年10月5日）で示された、話や文章が社会で果たす主な機能を「話や文章の機能」（仮称）として整理し、読む・書く・話すの学習を関連付ける方向性と、必履修科目を「現代の国語Ⅰ」（仮称）とし、実社会で必要な論理的思考力やコミュニケーション能力を中心に育成する方…

指導案の全文

**本時のねらい**

同じテーマで立場の異なる2つの意見文を読み比べて、主張と根拠の関係や論理の展開を捉え、根拠の確かさを観点に沿って吟味することができる。

**本時の流れ**

- **5分** 導入 単元のゴール（生徒会への提案文とスピーチ）と、前時に書いた最初の考えを振り返る。本時のめあてを確かめる。
- **12分** 展開 【構造と内容の理解・解釈】意見文A（基幹教材）を読み、主張に赤、根拠に青、理由付け（その根拠がなぜ主張を支えるのか）に緑の線を引く。段落ごとの役割を書き込み、構成図（主張→根拠→反論への応答→結論）に整理する。ペアで確かめる。
- **10分** 展開 意見文B（関連教材）を同じ方法で整理し、Aと構成を比べる。Bは体験談から始まり、主張が最後に来ることに気付く。
- **13分** 展開 【考えの形成】4人グループで、A・Bの根拠を4つの観点（①出典は明らかか ②数や範囲は十分か ③いつの情報か ④主張と理由付けでつながっているか）でチェックし、「確かな根拠」と「確かめが必要な根拠」に分ける。グループの判断を全体で共有する。
- **6分** 展開 【考えの形成】自分の仮の立場を決め、A・Bから使えそうな根拠と、まだ足りない情報（次時に調べること）を書き出す。
- **4分** まとめ 振り返りシートに、根拠を確かめる4つの観点のうち自分が見落としやすいものと、次時に調べることを書く。次時の情報収集（聞き取り・資料調べ）の予告を聞く。

PDF版：shidoan-ko1-gendai-iken-konkyo.pdf（ダウンロードコーナー）

## 10 現行の学習指導要領・解説（高校）

PDF **高等学校学習指導要領（平成30年告示）（本文）**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_03.pdf

PDF **高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編**
https://www.mext.go.jp/content/20250410-mxt_kyoiku01-100002620_02.pdf

PDF **（付録4）教科の目標，各科目の目標及び内容の系統表（高等学校国語科）**
https://www.mext.go.jp/content/1407196_23_1.pdf

PDF **（付録6）教科の目標，各学年の目標及び内容の系統表（小・中学校国語科）**
https://www.mext.go.jp/content/1407196_24_1.pdf

文部科学省の公式PDFです（クリックで開けます）。

## ご利用について

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P○ は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P○** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）

サイトで最新版を見る